

第28回

津田沼混声合唱団演奏会



W. A. モーツァルト

2007年10月8日(祝・月) 午後2時開演

会場 習志野文化ホール

後援 習志野市教育委員会

習志野文化ホール

習志野市芸術文化協会

習志野市音楽協会

第28回 津田沼混声合唱団演奏会



2006. 10. 22. 第27回演奏会より

Photo. スタジオ・スペースフォト

ごあいさつ

津田沼混声合唱団 団長 長島 昇

本日はご多忙のところご来場いただきまして誠に有難うございます。

私どもは高度な音楽文化を目標として精進を重ねてまいりましたが、おかげさまでこの度第28回演奏会を開くことができました。これもひとえに皆様方の暖かいご声援の賜物と厚くお礼申し上げる次第でございます。

溝口秀実先生指揮、青木八郎先生監督、の体制に替わりましてはやくも3年目になりますが、団員一同は心を引き締めて青木先生の音楽の継承を基盤に、新しい息吹を感じながら、練習に励んでおります。

今年はモーツァルトのレクイエムに挑戦することにいたしました。10年ぶりの再演です。オーケストラは昨年デビューの習志野モーツァルトアンサンブルのみなさんです。

第1部にはには平井康三郎の混声合唱曲集から、皆様よくご存知の水墨画のような数々の名曲をお楽しみいただきます。第2部、賛助出演の東京ブルーア・アルボは、中島はる作曲の女声合唱組曲「長崎小景」に取り組みます。これは青木先生にとりましても初体験の曲で出来上がりが楽しみです。

私どもは、これまで培ってきた津田混の伝統をまもり、精進を重ねて参る所存ですので、どうか倍旧のご声援を賜りますようお願い申し上げます。

どうぞ来年もこの会場でお目にかかれましてを楽しみにいたしております。

本日は本当に有難うございました。

第一部 平井康三郎 混声合唱曲集

指揮：溝口 秀実
 ピアノ：マグルーダー雅子
 演奏：津田沼混声合唱団

- | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|----|-------|
| 1. 合唱讃歌 | 作詞・作曲 | 平井康三郎 | 5. 平城山 | 作詞 | 北見志保子 |
| 2. みのむし | 作詞 | 林 古溪 | | 作曲 | 平井康三郎 |
| | 作曲 | 平井康三郎 | 6. 城ヶ島の雨 | 作詞 | 北原 白秋 |
| 3. 荒城の月 | 作詞 | 土居 晩翠 | | 旋律 | 梁田 貞 |
| | 作曲 | 滝 廉太郎 | | 作曲 | 平井康三郎 |
| | 編曲 | 平井康三郎 | 7. 九十九里浜 | 作詞 | 北見志保子 |
| 4. 越天楽 | 今様の旋律による | | | 作曲 | 平井康三郎 |
| | 作詞 | 慈 鎮 和尚 | | | |
| | 編曲 | 平井康三郎 | | | |

第二部 女声合唱組曲 長崎小景

指揮：青木 八郎
 ピアノ：齋藤 友恵
 演奏：東京ブルーア・アルボ

作詩／峯 陽 作曲／中島はる

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| 1. デジマノキ | 2. 春のこもりうた | 3. 八月九日十一時二分 |
| 4. 冬の日ざしに | 5. 夜 | 景 |

～ 休 憩 ～

第三部 レクイエム KV. 626 W.A.モーツァルト

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. Requiem | 指揮：溝口 秀実 |
| 2. Dies irae | 管弦楽：習志野モーツァルト アンサンブル |
| 3. Tuba mirum | オルガン：マグルーダー雅子 |
| 4. Rex tremendae | ソプラノ：岩崎 紀子 |
| 5. Recordare | メゾソプラノ：立川かずさ |
| 6. Confutatis | テナー：須合 一明 |
| 7. Lacrimosa | バリトン：齋藤 渉 (特別出演) |
| 8. Domine Jesu | 演奏：津田沼混声合唱団 |
| 9. Hostias | |
| 10. Sanctus | |
| 11. Benedictus | |
| 12. Agnus Dei | |

「ヒゲノミヤ殿下」に乾杯！

幕が揚がる。まばゆいばかりの光の中を颯爽と指揮者が登場する。時にはハッピー姿で、ときにはロシア王朝の王子（殿下）の出で立ちで。背筋がピンと伸びて青木先生にそっくり！ ふと一枚の写真を思い出す。酒席での記念撮影であろうか。その中にキリッとした好青年の姿があった。若き日の溝口氏である（もちろんアゴはスベスベ）。初対面で言葉を交わすこともなく別れたあの日から30年……。ふと我にかえる。一瞬の静寂を破って第一声が鳴り響く。長身から繰り出す全身を揺すっての的確な指示。これまでの、モヤモヤを吹き飛ばすかのような激しい身振り手振り。音は激流となって渦を巻き、怒濤のハーモニーがホールを唸らせる！ 「本番に強い……！ 只者ではない！」……。これまでの道のりは決して平坦ではなかった。副指揮者としてデビューしたのが8年前。父親の年の団員を前にしての指揮。偉大な指揮者の後を引き継ぐプレッシャー。「真似してもいいよ！」と言われても「ジイサン、バアサンもっと声を出して！」と品のいい殿下には言えるはずもなく、辛い日々の毎日だったと思う（今でも？）しかしここが発想の転換のしどころ。巡り会えたのは何かの縁。我が国を代表する合唱指揮者から、直接秘伝を盗める千載一遇のチャンスと捉え、ダメもとの精神でがんばってほしい。夜の明けぬ日はないのだから。「苦悩から歓喜へ！」（ベートーベンもそう言っている）。

「ヒゲノミヤ殿下」に乾杯。

（テノール） 須合一明



指揮 溝口 秀実

青木音楽への招待状とその出会い

30数年前、大学を卒業してこの船橋／習志野に住むようになり、まず、続けていける合唱団を捜しました。ある新聞広告で、この津田沼混声合唱団の存在を知り、ある土曜の夕方、はじめて練習を見学、ここなら、とすぐ入団することを決めました。

- 1) 40～60人くらいの合唱団で、人数もそこそこで、無理なく歌えそう
少人数では、常に集中せざるを得ず。手抜きができないため、というのが本音ですが、
- 2) 合唱のレベルも、そこそこにて、続けていけそう
ただ、楽譜を渡されて、音とりもせず、すぐアンサンブルをしているのにはいつもびっくりさせられています。（音楽学校出身、経験者多数であること）
- 3) （その当時は、ですが）同年代の方も多く、また、その年齢層が、幅広く、長く存在しているであろう、と思える合唱団、と思ったこと。

そして、最後に、

- 4) 指揮者の音楽に感銘できそうな気がしたこと
が、その理由でした。つまりは、感銘への世界への切符、招待状を手にした思いでした。

それから、30数年、特に、最近、感じていることは、その練習にあります。まず、リズム、繰り返し練習の激しさ、まず、声を出すために体作り、声を出す前準備、発声は、形からであることです、ただ、高校時代、所属していたコーラスグループは、パート練習は、体作りからであり、口の開け方、鏡を手に喉仏の上げ下げ運動、椅子にすわってV字バランスを1分間（それ以上）、ロングトーン30秒（できれば1分）以上、少量の息で1分以上長く吹き続ける演習、これらを数回もちろん全員が一緒に（時には、リズムを合わせて）、ともかく、体力作り、背筋力強化、腹筋の強化等々と、先生の指導にて合唱練習に出させていただけのまでには、まるで、運動クラブ、いやそれ以上であったことが、幸いでした。もう、そのような体力は、微塵もありませんが。そのため、津田混の音楽作り（しごき）に、全く抵抗感なく、こんなものであろう、と感じています。たまに、ついていけないときがありますが。

団員の皆さんが、いつも悩んでいる暗譜の難しさ、それよりも、難問／難解なのは、青木節を暗譜することです。多数のその難しさを支えているメンバーの存在は、私にとって大変貴重です。

また、私にとって暗譜をするのは、共に音楽している団員の皆さんと、細く、浅く、長く、つき合っているには、大切なことであり、青木音楽へのあまりの集中に、練習の最中に涙することもあります。指揮に反応している皆さんの目、顔、表情、等々に共に、感動し、共感していると感じているからです。これぞ、メンタルハーモニーの世界であると、青木音楽監督には、これからも、感動音楽の創造への道しるべとしていつまでも津田混を見守っていただきたい、と思っています。

中でも、津田混の音楽を継承するため、日夜、悩み苦しんでおられるであろう指揮者には、イヤサカを送りたく、今後もよろしく願います。という弁にて、青木音楽への賛辞の締めくくりとさせていただきます。

（バリトン） 高見芳秀



指揮・監修 青木八郎

習志野モーツァルト アンサンブル

昨年第27回演奏会「モーツァルト生誕250年記念」にデビューし、とても気鋭な音色とご評判をいただいたアンサンブルです。今年もひきつづきモーツァルトのレクイエムにお付き合い願うことになり、津田混にとっては心強い限りです。これからもいろいろな時代の音楽に共演いただき、より良い演奏会を展開できたらと夢が広がって参ります。

（テノール） 長島 昇

東京ブルーア・アルボ

1975年5月、東京ブルーア・アルボと団名を改め、85年青木先生の意向により「こぶしの会」と合併しました。当時の団員数50数名の合唱団となりましたが、主婦の集まりでもあり様々な事情も伴い、合併時より10数名の変動はやむを得ないことと思います。

津田沼混声定演への賛助出演も回を重ね今回で11回目となります。隔年開催の「青廊会」「こぶしの会」リサイタルに加え、毎年秋開催の津田沼混声賛助出演と大きなステージを踏ませていただき、大変学ぶことは多いのですが先生の気力、体力に圧倒されつつ挫けることなく、先生の気持ちに応えるべく練習に余念はありません。 釜島弥生



齋藤 渉 (バリトン)

宇都宮大学教育学部音楽科卒。声楽を名倉省三氏に師事する。栃木県民オペラ（現栃木県オペラ協会）にキャスト、スタッフとして参加した。

オペラデビューは、栃木県民オペラの「フィガロの結婚」、アントニオを演ずる。卒業後も、各地のオペラに出演した。

トミコ・ソッシー、セルジョ・ソッシー両氏に師事し、氏の主宰する東京プレイオペラにおいて、「フィガロの結婚」の伯爵、「ゴジファントウッテ」のグリエルモ等を演じ、好評を博した。

その後、バリトンの小松英典氏に師事、ソロ活動の傍らボーカルグループの「くわてーとさくら」に所属し、各地で演奏活動を行っている。



岩崎紀子 (ソプラノ)

東京音楽大学声楽科卒業。津田沼混声合唱団ソリストとして定期演奏会等において、メサイヤ（ヘンデル）、ミサ・ソレムニス（ベートーベン）、カルミナ・ブラーナ（オルフ）、レクイエム（モーツァルト）、美しきエレン（ブルッフ）、グローリア・ミサ（ヴィヴァルディ）、戴冠ミサ（モーツァルト）等、多数のソロを務める。また第46回千葉市管弦楽団定期演奏会（田久保裕一指揮）において歌劇「トリスタンとイゾルテ」（ワーグナー）の「愛の死」を独唱し、好評を博す。マンドリンクラブ・エレガンスの定期演奏会等にも客演、NPO「合唱会館」主催の第2回ソロコンサート出演。その他、佐倉市美術館や佐倉聖隷病院などのロビーコンサート、ジョイントコンサート等に出演。佐倉楽友協会会員。



立川かずさ (メゾソプラノ)

武蔵野音楽大学卒業。（財）日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。

本年5月藤原歌劇団公演「リゴレット」の伯爵夫人役でデビューした。

来年1月11日（金）四谷区民ホールの公演「ルイザ・ミラー」でフェデリーカ役が決まっている。

藤原歌劇団準団員、新国立劇場合唱メンバー。



須合一明 (テノール)

秋田経済大学や、東京経済大学では合唱関係の活動を経験し、大学の4年より本格的な声楽の勉強を始める。

東京声専音楽学校（現昭和音楽大学）卒業。声楽を中村卓郎、中島弘夫、アンサンブルを森靖博、砂田直規、指揮法を山本金雄の諸氏に師事。八千代市文化振興財団公演、歌劇「カルメン」のレメンダード役でオペラに初参加。その後「フィガロの結婚」のパジリーオ、クルツィオ、「魔笛」のタミーノ、「リゴレット」のマントヴァ公爵等を演ずる。又、谷津小管弦楽クラブや、童謡サークル「赤とんぼ」と共演し好評を博す。

津田沼混声合唱団団員兼ヴォイストレーナー。



マグルーダー雅子 (ピアノ)

国立音楽大学ピアノ科卒。久保田恵子、松野景一、ヘルマン・シュベルトマン各氏に師事。夏期ウィーン国立アカデミー修了。1985年ウェーバー・ピアノコンチェルト、1987年ベートーヴェン・ピアノコンチェルトNo. 4を山岡重信指揮で共演。他、ピアノデュオコンサート。四街道市音楽協会、習志野市音楽協会の第九合唱団、習志野文化ホール自主公演オペラ等の練習ピアニスト、他、コールカトレア、津田沼混声、ル・メヌエット、ソティエ、ソロ伴奏等務める。



齋藤友恵 (ピアノ)

東京音楽大学ピアノ科卒業。

2005年第1回関東東ピアノオーディション本選にて、全音楽譜出版社賞を受賞。同オーディション入賞者記念演奏会に出演。

その他ピアノソロ、ピアノ伴奏等で多くのコンサートに出演している。これまでに、ピアノを武田真理・中倉のり子・横山真子各氏に、声楽を飯塚三枝子氏に師事。現在、東京ブルーア・アルボ、こぶしの会、コール樹里、いずみの会の各団の伴奏を務める傍ら、自宅の教室にて後進の指導に当たっている。

全日本ピアノ指導者協会指導者会員。

平井康三郎 混声合唱曲集

*合唱讃歌

軽快な、それでいてスケールの大きな曲調である。合唱する喜びが全身からこみあげて溢れてくるような、まさに『合唱人』にはうってつけの曲。しかし、曲中に様々な表現要素が取り入れられていることから、どこかエチュード的な意味を込めて作曲されたものであるように感じるのは私だけだろうか？ 文字通り、「眉を上げ」て必死に、そして「心合わせて」注意深く歌わなければなかなか良さを表現しがたい。珍しく平井先生ご本人の作詞による作品である。

*みのむし

木からぶら下がり、何となくおどけたイメージのみのむしは、国文学の世界では「鳴く」という常識でとらえられている。清少納言が『枕草子』の中で「鬼の子として生まれ、捨てられてしまったみのむしが親の姿を求めて『ちちよ、ちちよ』とはかげになく」と記している。「秋風吹けば父恋しと鳴く」ことから俳句でも秋の季語となっている。何とも哀れで悲しい身の上である。この話を知ってこそこの曲の味わいが感じられる。もの悲しい旋律のピアノ伴奏もそのあたりを良く表している。合唱は「みのむしの旅は終わらない。果てしなく続く・・・」というニュアンスの終止でありながら、後奏はみのむしの夢はかなうことはないのだと言わんばかりのきちんと解決した終止、双方が相まって何とも言えない含みを残す。

*荒城の月

城を訪れたときの印象を元にして『栄枯盛衰』を詠んだ土井晩翠の詩に、ライプツィヒ留学前、21歳の滝廉太郎が故郷の城跡を思い出しながら作曲したと伝えられる名曲を混声四部に編曲したもの。今回は津田混には珍しくア・カペラに挑戦である。原曲のどっしりとしたレガートな感じ

を生かしつつもユニゾンあり、シンコーションあり、オブリガードありの立体的な構成になっている。様々なパートに受け渡される主旋律を感じながらバランス良く（音程良く？）色鮮やかに表現できると素晴らしい。

*越天楽

元になる「越天楽」は平安時代より雅楽で演奏される日本古曲である。その後室町時代に慈鎮和尚が歌詞を付けて「越天楽今様」として歌われるようになったものを合唱に編曲したのがこの作品である（昭和16年頃）。全体にレガートを貫き、最後は大きく華やかに盛り上がるも終わりは静かに消えるように表現する日本古謡らしい雰囲気がある。それがあまりにも素晴らしくてどの山々にも白雲がかかっているようだ。

*平城山

平井先生の作品の中で最も広く知られている曲の中のひとつである。この「平城山」は「九十九里浜」、「甲斐の峡」とともに『短歌連曲三部』としてまとめて取り上げられることも多い。平井作品以前は短歌は一首一曲の形式がほとんどであった。しかしそれではあまりに短くて時間的持続力に欠けてしまう欠点があったため、短歌を何曲か選び、連作として一曲を完成させる形式を編み出して作品としての価値を高めた。琴の音をイメージさせる美しい伴奏と古雅なメロディが相まって短歌の持ち味を生かした名曲である。以前津田混が平井先生から「三つの交声曲」の直接指導を受けたときのこと（本番の指揮も平井先生がなされた）「やまとことば」について注意を受けたことを思い出す。そういえば、先日青木先生からも同じ指摘を受けたような。

*城ヶ島の雨

破産した北原白秋の一家が再興を期して三崎に移り住んだ頃に書かれた詩である。白秋本人が「城ヶ島の思い出は

出演者名簿

ソプラノ				アルト				テナー				ベース			
有吉	聡子	藤敦	紀子	福田	みどり	田代	玲子	田中	禮子	富沢	節子	上野	順一	内田	淳
岩崎	紀子	岩沢	政子	増本	玲子	林	よし子	松永	弘美	溝口	真樹子	内田	浩昭	金子	幸康
北原	美保	小林	順子	吉村	美智恵	阿保	美實	飯岡	直樹	鬼頭	昭二	木村	穰	藤咲	公平
小林	順子	小林	保子	吾郷	和子	阿保	美實	飯岡	直樹	鬼頭	昭二	佐久間	泰宏	藤咲	公平
小林	保子	小林	保子	飯岡	祐子	阿保	美實	飯岡	直樹	鬼頭	昭二	高見	芳秀	藤咲	公平
高見	美保	高見	美保	市原	ゆり	阿保	美實	飯岡	直樹	鬼頭	昭二	友野	信善	藤咲	公平
田子	ひろ子	田子	ひろ子	小林	和子	飯岡	直樹	飯岡	直樹	鬼頭	昭二	藤咲	公平	藤咲	公平
多勢	藤子	多勢	藤子	佐野	雅子	鬼頭	昭二	鬼頭	昭二	須合	一明	古橋	伸太郎	古橋	伸太郎
立崎	洋子	立崎	洋子	志波	澄子	須合	一明	須合	一明	長島	義敬	松戸	照彦	松戸	照彦
田中	ひづる	田中	ひづる	鈴木	由美子	長島	義敬	長島	義敬	東谷	義敬	山田	三郎	山田	三郎
土居	智子	土居	智子	竹尾	よつ子	東谷	義敬	東谷	義敬	三田	村元	渡辺	洗一	渡辺	洗一
原口	正子	原口	正子	立川	かずさ	三田	村元	三田	村元						

つきない。相州（今の神奈川県）の三浦三崎、その向こうが岬の突端、左に通矢（地名）の岩をのぞみ、正面に城ヶ島の遊びが島を眺めて暮らした私達の家族であった。」と残している。元々は芸術座の音楽会のために舟歌としてつくられた。詩中の「利休鼠」とは抹茶がかった灰色のこと。独唱用と合唱用ではピアノ伴奏に大きな違いがあり、合唱用のほうが混声四部のコーラスとともに独唱部分をよりドラマチックに引き立てるものになっている。

***九十九里浜**

前半の2/2拍子では九十九里浜から見渡せる雄大な太平洋の荒波を、3/4拍子では雄大な中にも穏やかな波の様子を思わせる。その3/4拍子の部分は哲学的な雰囲気のある詞であろうか。『はるか沖の波を見ながら思うこと・・・自分の成そうとしていることは幾重（五百重）もの乗り越えるべき障害があり、とても成り難く、希望のないことなのではなかろうか・・・』ラストの4/4拍子の部分には九十九里からの雄大な光景に『何者にもひるまずに進め』と言わんばかりの自然からの力、エールのようなものを感じる。（岩崎）

長崎小景

地理的にも歴史的にも特別な位置にあり、多くの人々から関心や憧れを寄せられてきた長崎。62年前の8月9日、原爆が投下され、被爆した長崎をテーマに、峯陽氏により作詩され、中島はる氏によって作曲された女声合唱組曲「長崎をうたう」全13曲の中の一組曲である。初演は平成10年12月。「長崎を歌う」女声合唱団により演奏された。

1. デジマノキ

江戸時代から出島の波止場の片隅に立っている南洋杉が

故郷のジャワ島への望郷の念をうたう。

2. 春のこもりうた

異国情緒豊かな長崎の一行事「ハタ揚げ」がテーマ。色とりどりのハタが風に舞う華やかなさま。淋しくて眠れない夜は、ハタ揚げの歌「(稲佐山から、風もらおう いーんま風もどそう)と私が歌ってあげるから、私の腕でゆっくりお休み」といった優しい子守歌。

3. 八月九日十一時二分

祈りと愛と思いを込め、自然と神と人間が46億年かけて築きあげてきた地球が、美しい長崎の町並みが、原爆投下により一瞬にして焦土と化した。神々の栄光、生命への尊厳は踏みにじられ、打ち砕かれた。二度と起こしてはいけない核戦争への恐怖をうたう。

4. 冬の日ざしに

昔ながらの暖かい冬の日ざしの中、何事もなかったように、ゆったりと時が流れる。

5. 夜景

夕風を背にして山に登り、見上げれば満天の星、眼下には宝石をちりばめたような街の灯。そんな景色の中で、二人に言葉は無用である。ふるさとの山よ、海よ、空よ、地上のすべてに平和が訪れた。（釜島）

レクイエム (モーツァルト)

レクイエム(鎮魂曲)～死者の冥福を祈るためのミサ曲で、曲の始めにおかれた入祭文が「安息」を意味するラテン語の「レクイエム」で始まることから、こう呼ばれている。

1791年7月、見知らぬ不気味な男がぜひともレクイエムを作曲して欲しいとモーツァルトの家を訪ねてきた。作曲

<p>第29回 津田沼混声合唱団演奏会</p> <p>プッチーニ生誕150年記念</p> <p>グローリア ミサ 他</p> <p>指揮 溝口秀実</p> <p>音楽監督 青木八郎</p> <p>日時 2008年10月26日(日)午後2時</p> <p>会場 習志野文化ホール</p> <p>管弦楽 習志野モーツァルトアンサンブル</p>	<p>第14回 こぶしの会リサイタル</p> <p>指揮 青木八郎</p> <p>グノー作曲 青木八郎編曲</p> <p>女声合唱による 「聖セシリアのための荘厳ミサ」</p> <p>他</p> <p>日時 2008年5月11日(日)</p> <p>会場 習志野文化ホール</p> <p>管弦楽 未定</p>
<p>第24回 青廊会ソロリサイタル</p> <p>監修 青木八郎</p> <p>会場 千葉市生涯学習センター ホール</p> <p>日時 2008年1月27日(日)10時開演</p> <p>A・B合同</p> <p>特別出演 井上百合子・前田地香子</p> <p>A出演者 25名</p> <p>B出演者 21名</p>	<p>第38回 青廊会リサイタル</p> <p>指揮 青木八郎</p> <p>青木八郎編曲・女声合唱による</p> <p>カール・オルフ 「カルミナ・ブラーナ」 他</p> <p>日時 2009年5月(予定)</p> <p>会場 習志野文化ホール(予定)</p> <p>出演 ブルーア・アルポ/東京ブルーア・アルポ</p> <p>津田沼混声合唱団</p> <p>管弦楽 (未定)</p>

の注文主はバルゼックという伯爵で、チェロやフルートを演奏するアマチュア音楽愛好者であるが、大金を積んで書かせた曲を晩餐会に招いた客の前で演奏し、自作と思わせることに少しも恥じない人物でもあった。実は伯爵は半年近く前に妻を失い、その命日のミサでこのレクイエムを自作として演奏したいがためにモーツァルトに白羽の矢を立てたのであった。見知らぬ不気味な使者は、バルゼックの名を明かそうとはしなかったが、貧乏のどん底に喘ぐモーツァルトは、高額な報酬に心を動かされてこの仕事を引き受けることになったのである。

直ちに作曲に取り掛かったのであるが、このとき35歳のモーツァルトは既に健康を害しており、その上9月6日初演のオペラセリア「皇帝ティトスの慈悲」の作曲と初演のためのプラハへの旅、さらに9月30日に迫っている「魔笛」の作曲などの仕事を抱え込んでいて、「レクイエム」の筆は入祭文の2曲がほぼ完成したのみで滞っていた。しかもプラハの旅以来病状の悪化した彼は、見知らぬ不気味な男をあたかも地獄からの使者であるかのように幻想し、強迫観念にとりつかれるようになっていた。自分のための「レクイエム」だと思いつつ、病の床にありながらも筆を進めていたのである。

死の前日12月4日彼の枕元には妻のコンスタンツェと、これまでずっと仕事を手伝ってきた弟子のジェスマイヤーほか数人の友人が集まって、出来上がった部分を通して試唱していた、モーツァルト自身もアルトのパートと一緒に歌い、ラクリモーザのところまでくると、こみ上げる激情に耐えきれず楽譜をおいて泣いてしまったという。次の日の早朝ついに彼の命は尽きてしまった。ラクリモーザを8小節まで書き上げたところで未完のまま・・・。

モーツァルトはレクイエムの完成が覚束ないことを悟ったとき、ジェスマイヤーを枕元に呼び、残りの部分を仕上げるために細かな指示を与えていたという。そのジェスマイヤーが補筆して完成させたのが、今日まで歌いつがれている大傑作・モーツァルトの「レクイエム」である。

しかし後世に一部の専門家から、この補筆がモーツァルトの様式にそぐわないとの批判が起こり、殊に演奏家の立場からオーケストレーションに対する不満が表明されたことも事実である。

第1曲 イントロイトゥス(入祭文)とキリエ(主よ憐れみ給え)

モーツァルトの完全真筆になる部分である。導入部の異常なまでの訴求力は思わず背筋がぞくぞくする。正に彼が自分のための葬送曲にと考えたことを裏付ける迫力である。弦は弱音のスターカートにのって流れはじめ管に移行していく。合唱はベースからソプラノまで2拍遅れでレクイエムの動機をとらえてくり返す重々しい雰囲気満ちている。間髪を入れず合唱が熱烈な主題キリエエレイソンをベースから繰り出すと、こきざみな副主題クリステエレイソンをもってアルトがからみ合い、次々と二重フーガが展開する。

第2曲 ディエス・イレ(怒りの日)

この世が灰燼に帰する最後の審判の日を歌う凄絶雄大な曲想を、オーケストラの激しい響きとともにおののきと昂まりを持った合唱がディエス・イレを唱え、後半はベース

のトリル・モチーフと三部合唱との対話体でやりとりされる。

第3曲 トゥーバ・ミルム(不思議なラッパ)

トロンボーンの独奏からベースの独唱に受け継がれて始まるこの曲は、最後の審判者を前にして人間のおそれおのく姿が伝わってくる。

第4曲 レクス・トゥレメンデ(恐るべき大王よ)

主の前にひれ伏して慈悲と救済を乞う一章。大王よ!(レクス!)を三度連呼して始まり、女声と男声の二重カノンに発展し、最後に救いを求める言葉がささやかれる。

第5曲 リコルダレ(思い給え)

天からの恵みを暗示するような美しい伴奏にのって、ソリストによる四重唱が2度のカノンで進行する。きしむような美しい響きが次々と折り重なって歌いつがれて発展する。

第6曲 コンフターティス(呪われた者どもを)

呪われた者どもが火に落ちるさまを象徴するオーケストラの伴奏に、怯えるような男声合唱のカノンと高音域の女声合唱とがコントラストをなして対立。後半は半音階進行により恐れ、不安な弱い人間が、全能なる主の前に膝を折る姿を見る思いで終わる。

第7曲 ラクリモーザ(涙の日)

この曲の8小節をもってモーツァルトの絶筆となった。ため息のような暗く重く短いモチーフを反復する2小節の序奏に続いて合唱がすすり泣くように歌い出す。胸が締め付けられるような感動的な曲である。

第8曲 ドミネ・イエズ(主イエズ)

祈りをこめた合唱ではじまり、大胆な転調と音程飛躍の多い中間部があり、ソリストの四重唱に歌いつがれる。最後の句「アブラハムとその子孫は」は合唱が受け持ち壮大なフーガで後半を盛り上げる。

第9曲 ホスティアス(いけにえ)

いけにえを捧げて靈魂の救いをねがう祈りの唱である。敬虔な賛歌をもってはじまり、「アブラハムとその子孫は」の部分は前曲のまま反復される。

第10曲 サンクトゥス(聖なるかな)

全管弦が動員され荘厳な響きで大きく盛り上げる。オザンナはベースからはじまる合唱のフーガで展開する。

第11曲 ベネディクトゥス(祝されよ)

サンクトゥスと一環をなす感謝の賛歌である。ソリストの四重唱により抒情的に処理されている。そしてオザンナは転調し、テナーからはじまるテンポの速いフーガが反復されるのである。

第12曲 アニウス・ディ(神の子羊)

ジェスマイヤーの創作になる部分で出色の一曲と賞賛されている。「彼らに安息を与え給え」と祈りをこめた美しい響きが全体に流れている。

ルクス・エテルナ(永遠の光明)

「主よ永遠の光明を彼らの上に輝かせたまえ」とソプラノのソロで始まるこの部分から二重フーガで終結するところまでは、モーツァルトの手になる冒頭の部分が再現されるのであるが、これは生前の指示にジェスマイヤーが従ったものである。

- 第1回 1980年10月19日(昭和55年)
グロリア(ヴィヴァルディ)、わたしの願い、不盡山を見て、みのむし 他
習志野フィルハーモニー管弦楽団
- 第2回 1981年10月11日(昭和56年)
戴冠ミサ(モーツァルト)、水のいのち、ロシア民謡 他
モーツァルテウム オーケストラ
- 第3回 1982年10月11日(昭和57年)
聖セシリアのための荘厳ミサ(C・グノー)、アヴェ・ヴェルム・コルプス、サンクタ・マリア(モーツァルト)、にほんの歌より 他
ウィンドミル・オーケストラ
- 第4回 1983年11月20日(昭和58年)
レクイエム(フォーレ)、日本民謡集、イタリア民謡集
習志野フィルハーモニー管弦楽団
マンドリンクラブ エレガンス
- 第5回 1984年10月21日(昭和59年)
雀のミサ(モーツァルト)、筑後川、紅椿、美しきエレン 他
習志野フィルハーモニー管弦楽団
宮内雅支緒社中
- 第6回 1985年10月19日(昭和60年)
オルガンソロ・ミサ(モーツァルト)、三つの山の詩、海鳥の詩 他
習志野フィルハーモニー管弦楽団
- 第7回 1986年10月19日(昭和61年)
レクイエム(モーツァルト)、愛唱歌集メドレー(冬の星座、カリンカ)、他
市川交響楽団
- 第8回 1987年10月18日(昭和62年)
ミサ・ブレヴィス KV275(モーツァルト)、平井康三郎作品集、愛唱歌集メドレー 他
ヘンデル室内合奏団
- 第9回 1988年10月30日(昭和63年)
ミサ・ロンガ(モーツァルト)、山に祈る、愛唱歌集より 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第10回 1989年10月22日(平成元年)
ミサ・ソレムニス KV139(モーツァルト)、月光とピエロ、ロシア民謡より 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第11回 1990年10月21日(平成2年)
ドミニクス・ミサ(モーツァルト)、四季、ロシア民謡 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第12回 1991年10月20日(平成3年)
レクイエム(モーツァルト)、オペラ合唱曲集
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第13回 1992年10月25日(平成4年)
戴冠ミサ(モーツァルト)、美しきエレン、日本民謡集 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第14回 1993年10月24日(平成5年)
カルミナ・ブラーナ(カール・オルフ)、平井康三郎作品集 他
習志野フィルハーモニー管弦楽団
- 第15回 1994年10月2日(平成6年)
ミサ曲ハ長調(ベートーヴェン)、海鳥の詩、日本民謡集 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第16回 1995年11月26日(平成7年)
メサイア(全曲)(ヘンデル)
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第17回 1996年10月20日(平成8年)
ミサ・ソレムニス(荘厳ミサ)(ベートーヴェン)、遙かな歩み
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第18回 1997年11月23日(平成9年)
レクイエム(モーツァルト)、富山に伝わる三つの民謡
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第19回 1998年10月25日(平成10年)
ネルソン・ミサ(ハイドン)、水のいのち(高田三郎) 他
津田沼ユニバーサル交響楽団
- 第20回 1999年10月24日(平成11年)
カルミナ・ブラーナ(カール・オルフ)
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第21回 2000年10月29日(平成12年)
宗教歌曲集(メンデルスゾーン)、マニフィカート(パッフェルベル) 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第22回 2001年10月21日(平成13年)
グロリアミサ(プッチーニ)、島よ(大中恩) 日本民謡 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第23回 2002年10月20日(平成14年)
ミサ・ソレムニス(ケルビーニ)(本邦初演)、心の四季(高田三郎) 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第24回 2003年10月26日(平成15年)
ミサ・ソレムニス(ロッシーニ)、筑後川(團伊玖磨) 他
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第25回 2004年10月24日(平成16年)
ミサ・ソレムニス(荘厳ミサ)(ベートーヴェン)、日本の合唱曲10選(青木八郎編曲)
ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
- 第26回 2005年10月23日(平成17年)
戴冠ミサ(モーツァルト)、グロリア・ミサ(ヴィヴァルディ) 日本民謡集(青木八郎編曲)
習志野フィルハーモニー管弦楽団
- 第27回 2006年10月22日(平成18年)
ミサ・ブレヴィスKV275(モーツァルト)、三つの交声曲(平井康三郎) 他
習志野モーツァルト アンサンブル

第1回~第25回 指揮・青木八郎
第26回~ 指揮・溝口秀実

保険医療機関

内科・呼吸器科・消化器科・循環器科・神経内科・外科
整形外科・眼科・肛門科・リハビリテーション科・人間ドック

医療法人
柏葉会

柏戸病院

診療受付時間：午前8時半～午後4時迄
但し、外科は午前11時半迄 ＊休診日：日曜・祝日

バス停「柏戸病院前」 ☎043(227)8366(代)
千葉県中央区長洲2-21-8

柏戸歯科医院

柏戸信美

(診療時間)
月～金 AM9:00～12:00 PM2:00～6:30
土 AM9:00～12:00 PM2:00～4:00
休診日 木・日曜及び祭日

〒260-0854
千葉市中央区長洲2-21-1 スカイラークハイツ116
電話 043-224-5060 FAX 043-224-5229

京成津田沼駅前通りに 本格魚料理の店

ご家族・グループ、お誘い合わせの上
ご来店をお待ちしております

当店は四季折々、魚一筋の店です。

3Fにはパブラウンジがありますので
二次会にご利用ください。

店主

海鮮 たか丸

営業時間

11:30～14:00 (ランチ700円より)

17:00～23:00

習志野市津田沼4-9-16
TEL:047(452)1160

伝統の味と技術を生かした漬物



「おいしい漬け物創り」をモットーに時代のニーズにお応えするため、伝統の味を生かし、新技術で食べやすい漬物を製造しております。醤油の町にふさわしい、低塩で食べやすい美味百選シリーズから千葉県推奨品長堀の「鉄砲漬け」そして「らっきょう漬け」、「うりと胡瓜の味わい漬」、「鉄砲瓜の刻みもろみ漬」、「梅干し」。お客様の嗜好に合わせ単品から販売しております、

●商品紹介

「らっきょう醤油漬」 「生姜の醤油漬」
「胡瓜の刻み醤油漬」 「うりと胡瓜の味わい漬」
「鉄砲瓜の刻みもろみ漬」

長堀商店

野田市清水268 電話 04-7123-3101

団員募集

私たちと一緒に歌いませんか

見学自由 直接練習会場へおいでください

練習会場 菊田公民館(習志野市)・東部公民館(船橋市)・青木ホール(八千代市)

練習曲目 **ブッチーニ・グローリア・ミサ** 他

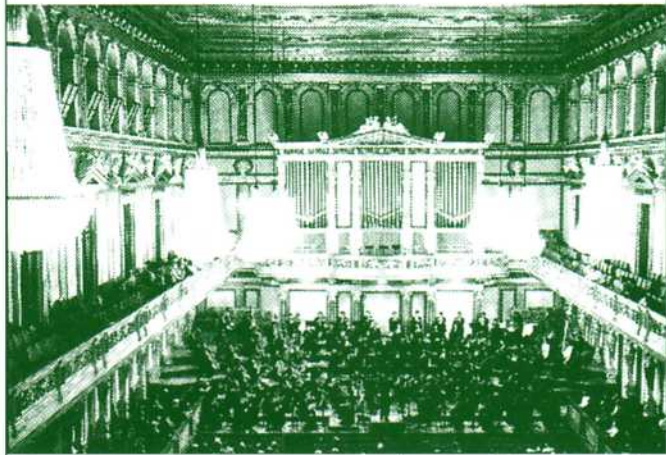
団費 一般2,000円 学生500円

入団費 1,000円

お問い合わせ TEL. 047-454-3477 長島

津田混ホームページ：<http://music.geosities.jp/tsudanumakonsej/>
津田沼混声合唱団で検索していただいても結構です。

海外演奏旅行にも飛びます



ウィーン・ムジークフェライン

舞台写真・ビデオ撮影専門

(有) スタジオ **スペースフォト**

TEL/FAX 047-397-1283

E-mail : space-photo@r6.dion.ne.jp

〒272-0132 市川市湊新田1-9-17グリーンハイツ行徳102号



●お客様のご予算・お好みに合わせて
オーダーメイドのお弁当をお作りいたします、

仕出し弁当

受託給食・ケータリング料理

株式会社 **松柰**

〒272-0032 千葉県市川市大洲4-7-11

フリーダイヤル 0120-020-866

(代) TEL 047-379-0866

FAX 047-379-0865

E-mail showraku@pastel.ocn.ne.jp



医療法人社団 明寿会

堂後整形外科

整形外科・外科・リハビリテーション科

〔診療時間〕
月～金 AM9:00～12:30 PM2:30～6:30
土 AM9:00～12:30 午後休診
日曜、祝日 休診



047 (464) 8531 船橋市薬円台2-7-22

竹 内 薬 局

習 志 野 市 藤 崎 2 - 1 0 - 1 1

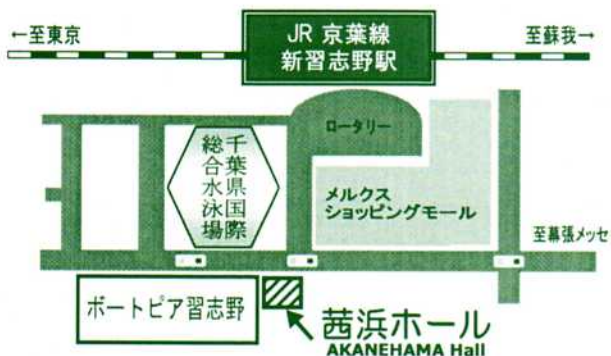
電 話 0 4 7 - 4 7 2 - 5 3 5 7

文化情報発信基地

茜浜ホール AKANEHAMA Hall

音楽会、発表会、展示会 など
多目的にご利用いただける空間です

約180㎡の空間は様々な催しに対応。
音響照明、ポータブルステージを完備。
シアター形式で最大150名様様の収容が
可能です。



お問合せ・ご予約
(10:00~16:00)

茜浜ホール事務所

〒275-0024 習志野市茜浜2-7-2

TEL 047-408-0205

FAX 047-452-0170

<http://www.akanehama-hall.jp>

☆ 祝 第28回定期演奏会 ☆



美しい中世のチェスキークルムロフ (チェコ)

私どもでは、文化交流のスペシャリスト
として音楽団体の海外公演の企画・立
案・手配を総合的に扱っております。
お気軽にご相談下さい。

海外交流企画部

株式会社 トラベルハーモニー 国土交通大臣登録旅行業1812号

〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1 スガビル7階

TEL: 03-3226-8064 FAX: 03-3226-8815 担当: 本山

.....
restaurant
caravan serai

キャラバンサライ

☆洋食中心の無国籍料理店です。

☆コースは¥1,500~¥3,500

お値段に合わせても、ご用意させていただきます。

☆パーティー承ります。要予約です！

☆お気軽にお問い合わせください。

習志野市津田沼5-14-5

習志野第一病院前

TEL:047-452-5123

◎営業時間 11:00~14:00

17:00~22:00

P有り 日・祭日は休業です。